

高知県感染症発生動向調査（週報）

2011年第50週（12月12日～12月18日）

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/
E-mail : kansen@ken4.pref.kochi.jp

インフルエンザの流行シーズン

厚生労働省は16日、今シーズンのインフルエンザが流行期に入ったと発表した。これは、平成23年第49週（12月5日～11日）の感染症発生動向調査でインフルエンザの定点当たりの報告数が1.11となり、流行開始の目安としている1.00を上回ったことによる。また流行入りの時期は例年並みとしている。高知県は、第49週は定点当たり0.13と少ない値であるが、第50週（12月12日～18日）に病原体定点から搬入された検体からインフルエンザウイルスA/H3N2（A香港）亜型が検出された。今後は注意が必要である。

予防としては、流行期に人込みを避けること、外出後の手洗いやうがいなどを励行することなどが挙げられる。

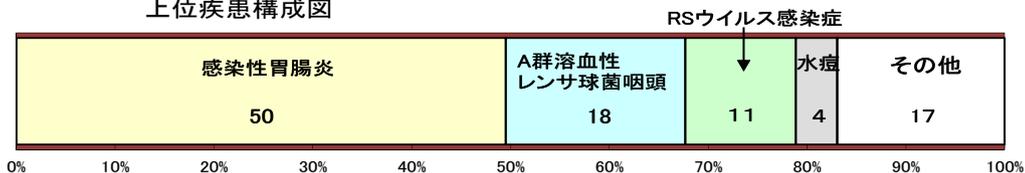
県内情報

○ 患者情報総評

注意報発令疾患：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、マイコプラズマ肺炎

- 週前半は暖かい日が続いたが後半は一変して気温は低くなり、冬らしい気候となった。
- 感染性胃腸炎（中央西：注意報、高幡：警報→注意報）**は高幡と高知市で減少し総数も減少した。流行の時期であり引き続き注意が必要である。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（高知市：警報、中央西：注意報、高幡：注意報、幡多：注意報）**は安芸と中央東で減少したがその他の地域で増加し総数は約3倍となった。今後注意が必要である
- RSウイルス感染症**は今週も引き続き増加した。特に中央東と高知市で増加し総数は約2倍となった。今後も流行のピークに向かって増加すると思われるので、注意が必要である。
- 流行性耳下腺炎（幡多：注意報→警報）**は幡多で増加し警報値となる。その他の地域は減少し総数は減少した。しかし、週によって増減しており今後も注意が必要である。

上位疾患構成図



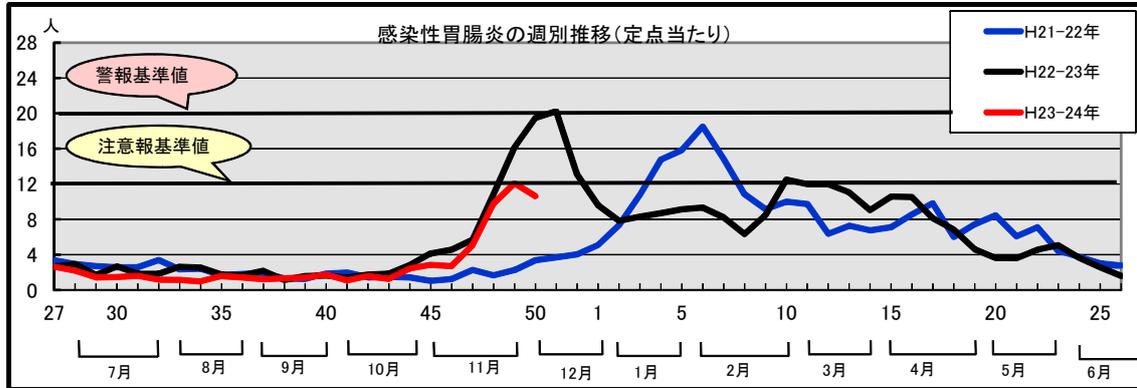
地域別感染症注意報・警報発生状況

第50報（2011年12月12日～2011年12月18日）



感染性胃腸炎：今週 10.63 （注意報値：12.00 警報値：20.00）

総数は減少し注意報値を下回った。高知市、中央東と高幡から搬入された検体から、Norovirus G IIが13件と前週よりも多く検出された。今後も報告数の急増が考えられるので、注意が必要である。帰宅後の手洗い・うがい、食事前やトイレの後は必ず手を洗い予防して欲しい。感染力が強く、2次感染にも注意が必要である。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎：今週 3.90 （注意報値：2.00 警報値：4.00）

総数は前週の約3倍に増加し、例年同時期と比較して多い報告数となった。地域毎に見ると、高知市で警報値を、中央西、高幡及び幡多で注意報値を超している。年齢別では2歳、5歳、6歳の報告数が多くその他の年齢も増加しており注意が必要である。予防法としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい、手洗いなどの一般的な予防も励行する。

マイコプラズマ肺炎：今週 0.71 （注意報値：0.50 警報値：2.00）

報告数は減少したが注意報値を超した。搬入された検体からは、*Mycoplasma pneumoniae* 5件が検出されており、今後も注意が必要である。

検査情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	地域	ウイルス、細菌の検出状況
50	インフルエンザ	10歳	女	高知市	Influenza virus A H3 NT
50	感染性胃腸炎	7歳	男	高知市	Norovirus GII NT
50	感染性胃腸炎	10ヶ月	男	高知市	Norovirus GII NT
50	感染性胃腸炎	1歳	男	高知市	Norovirus GII NT
50	感染性胃腸炎	11ヶ月	女	高知市	Norovirus GII NT
50	感染性胃腸炎	1歳	男	高知市	Norovirus GII NT
50	感染性胃腸炎	11ヶ月	男	高知市	Norovirus GII NT
50	感染性胃腸炎	1歳	男	中央東	Norovirus GII NT
50	感染性胃腸炎	1歳	女	中央東	Norovirus GII NT
50	感染性胃腸炎	2歳	男	高幡	Norovirus GII NT
50	感染性胃腸炎	1歳	男	高幡	Norovirus GII NT
50	感染性胃腸炎	1歳	女	高幡	Norovirus GII NT
50	感染性胃腸炎	3歳	女	高幡	Norovirus GII NT
50	感染性胃腸炎	3歳	男	高幡	Norovirus GII NT
50	マイコプラズマ肺炎	8歳	男	中央東	Mycoplasma pneumoniae
50	マイコプラズマ肺炎	9歳	女	高幡	Mycoplasma pneumoniae
50	マイコプラズマ肺炎	3歳	男	高幡	Mycoplasma pneumoniae
50	マイコプラズマ肺炎	8歳	女	高幡	Mycoplasma pneumoniae
50	マイコプラズマ肺炎	11	男	高幡	Mycoplasma pneumoniae

前週以前に搬入され検出された病原体

受付週	臨床診断名	年齢	性別	地域	ウイルス、細菌の検出状況
49	感染性胃腸炎	1歳	男	高幡	Sapovirus genogroup unknown

○ **全数報告の感染症情報**

2類感染症：結核 4例（90代男）《中央東》（20代男女）《須崎》（80代男）《幡多》
（今年186例）

○ 定点からの地域ホット情報

幡多

《渭南病院小児科》：アデノウイルス咽頭炎 2例（1歳女、2歳男）
マイコプラズマ肺炎 3例（20歳代男、40歳代女、70歳代女）

須崎

《もりはた小児科》：アデノウイルスによる扁桃炎 1例（1歳男）、マイコプラズマ肺炎 1例（9歳女）
49W マイコプラズマ肺炎 3例（3歳、8歳、11歳）

中央西

《石黒小児科》：マイコプラズマ肺炎 3例（2歳女、3歳女、13歳男）
《日高クリニック》：マイコプラズマ気管支炎 1例（2歳女）、アデノウイルス扁桃炎 1例（3歳女）
《くぼたこどもクリニック》：感染性胃腸炎 8例（1歳男:2例、2歳女:2例、3歳男、5歳男:2例、31歳女）

高知市：

《細木病院小児科》：サルモネラo8 1例（1歳女）
《福井小児科・内科》：マイコプラズマ肺炎 1例（9歳女）
《けら小児科・アレルギー科》：アデノウイルス扁桃炎 1例（1歳男）、
マイコプラズマ肺炎 2例（4歳女、5歳男）

中央東

《あけぼの小児クリニック》：マイコプラズマ肺炎 2例（9、27歳）
《早明浦病院小児科》：マイコプラズマ肺炎 3例（2歳男女、3歳女）、RSウイルス感染症増加、
感染性胃腸炎増加、溶連菌感染症も引き続き流行し再発例も見られる
《吉本小児科皮膚科》：キャンピロバクター陽性 2例（5歳、11歳男）

安芸

《田野病院小児科》：アデノウイルス扁桃炎 1例（1歳女）、ヘルペス歯肉口内炎 1例（3歳男）

全国情報第48週（11/28～12/4）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核392例

3類感染症：細菌性赤痢6例、腸管出血性大腸菌感染症30例（有症者19例、うちHUS 1例）

4類感染症：A型肝炎2例、つつが虫病26例、デング熱2例、日本紅斑熱6例、ブルセラ症1例、
レジオネラ症17例

5類感染症：アメーバ赤痢4例、ウイルス性肝炎3例B型3例、急性脳炎5例、ムンプスウイルス1例、
クロイツフェルト・ヤコブ病3例、後天性免疫不全症候群8例（AIDS 3例、無症候5例）、
ジアルジア症1例、髄膜炎菌性髄膜炎2例、梅毒12例、破傷風2例、
バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん2例、麻しん2例

報告遅れ：細菌性赤痢2例、日本紅斑熱6例、急性脳炎1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例

◆インフルエンザ

インフルエンザ（Influenza）は、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられている。インフルエンザは、典型的な発症例では1～4日間の潜伏期間を経て、突然に発熱（38℃以上の高熱）、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続く。通常は1週間前後の経過で軽快するが、いわゆる「かぜ」と比べて全身症状が強いのが特徴である。

主な感染経路はくしゃみ、咳、会話等で口から発する飛沫による飛沫感染であり、他に接触感染もあるといわれている（CDCホームページ：<http://www.cdc.gov/flu/about/disease/spread.htm>）。インフルエンザの感染対策としては、飛沫感染対策としての咳エチケット、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生の徹底が重要と考えられるが、たとえインフルエンザウイルスに感染しても、全く無症状の不顕性感染例や臨床的にはインフルエンザとは診断し難い軽症例が存在する。従って、特にヒト・ヒト間の距離が短く、濃厚な接触機会の多い学校、幼稚園、保育園等の小児の集団生活施設においてインフルエンザの集団発生をコントロールすることは困難であると思われる。2009年4月に発生した新型インフルエンザは、2011年4月以降はインフルエンザ（H1N1）2009と呼ばれるようになり、他のA/H3N2（A香港）亜型やB型のインフルエンザと同様にヒト・ヒト間で流行する季節性インフルエンザ対策の中に組み込まれることとなった（「新型インフルエンザ（A/H1N1）に係る季節性インフルエンザ対策への移行について」厚生労働省新型インフルエンザ対策推進本部事務局：<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/dl/jichitai1100401-01.pdf>）。

感染症発生動向調査では、全国約5,000カ所（小児科定点約3,000、内科定点約2,000）のインフルエンザ定点からの報告に基づいてインフルエンザの発生動向を分析している。インフルエンザの定点当たり報告数は、2011年第42週以降増加が続いており、第48週の定点当たり報告数は0.57（報告数2,781）と、前週（第47週定点当たり報告数0.29）のほぼ2倍の値となった。

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第50週 平成23年12月12日(月)～平成23年12月18日(日)

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(49週)	高知県(50週末累計) H23/1/3～H23/12/18
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ								6 (0.13)	5,447 (1.11)	12,353 (257.35)
小児科	咽頭結膜熱		1	10				11 (0.37)	5 (0.17)	1,229 (0.39)	339 (11.30)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		4	92	6	4	11	117 (3.90)	34 (1.13)	7,025 (2.24)	2,184 (72.80)
	感染性胃腸炎	16	64	97	50	33	59	319 (10.63)	362 (12.07)	28,125 (8.95)	8,053 (268.43)
	水痘		5	20	1		1	27 (0.90)	15 (0.50)	6,885 (2.19)	1,738 (57.93)
	手足口病	3	5	4			2	9	23 (0.77)	2,397 (0.76)	3,341 (111.37)
	伝染性紅斑		2	7	2	3	4	18 (0.60)	9 (0.30)	772 (0.25)	544 (18.13)
	突発性発疹		1	5	2	1	3	12 (0.40)	10 (0.33)	1,749 (0.56)	704 (23.47)
	百日咳							(0.00)	2 (0.07)	77 (0.02)	47 (1.57)
	ヘルパンギーナ		1	3		2	7	13 (0.43)	3 (0.10)	189 (0.06)	978 (32.60)
	流行性耳下腺炎		1	5	2		16	24 (0.80)	30 (1.00)	2,183 (0.69)	540 (18.00)
	RSウイルス感染症		23	45	2		2	72 (2.40)	34 (1.13)	3,316 (1.06)	832 (27.73)
眼科	急性出血性結膜炎									18 (0.03)	1 (0.33)
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	1 (0.33)	401 (0.59)	58 (19.33)
基幹	細菌性髄膜炎									24 (0.05)	7 (1.00)
	無菌性髄膜炎			2				2 (0.67)		17 (0.04)	26 (3.71)
	マイコプラズマ肺炎			3			2	5 (0.71)	8 (1.14)	702 (1.51)	142 (20.29)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									21 (0.05)	11 (1.57)
計 (小児科定点当たり人数)		19 (9.50)	107 (15.29)	294 (26.18)	65 (21.67)	45 (22.50)	114 (22.40)	644 (21.20)			
前週 (小児科定点当たり人数)		22 (10.50)	65 (9.23)	273 (24.31)	61 (20.20)	51 (25.50)	59 (11.00)		531 (17.33)	60,577	31,898 (900.69)

注 ()は定点当たり人数。

定点当たり		第50週									
定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(49週)	高知県(50週末累計) H23/1/3～H23/12/18
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ								0.13	1.11	257.35
小児科	咽頭結膜熱		0.14	0.91				0.37	0.17	0.39	11.30
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.57	8.36	2.00	2.00	2.20	3.90	1.13	2.24	72.80
	感染性胃腸炎	8.00	9.14	8.82	16.67	16.50	11.80	10.63	12.07	8.95	268.43
	水痘		0.71	1.82	0.33		0.20	0.90	0.50	2.19	57.93
	手足口病	1.50	0.71	0.36		1.00	1.80	0.77	0.40	0.76	111.37
	伝染性紅斑		0.29	0.64	0.67	1.50	0.80	0.60	0.30	0.25	18.13
	突発性発疹		0.14	0.45	0.67	0.50	0.60	0.40	0.33	0.56	23.47
	百日咳								0.07	0.02	1.57
	ヘルパンギーナ		0.14	0.27		1.00	1.40	0.43	0.10	0.06	32.60
	流行性耳下腺炎		0.14	0.45	0.67		3.20	0.80	1.00	0.69	18.00
	RSウイルス感染症		3.29	4.09	0.67		0.40	2.40	1.13	1.06	27.73
眼科	急性出血性結膜炎									0.03	0.33
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.33	0.59	19.33
基幹	細菌性髄膜炎									0.05	1.00
	無菌性髄膜炎			0.40				0.29		0.04	3.71
	マイコプラズマ肺炎			0.60			2.00	0.71	1.14		
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.05	1.57
計 (小児科定点当たり人数)		9.50	15.29	26.18	21.67	22.50	22.40	21.20			
前週 (小児科定点当たり人数)		10.50	9.23	24.31	20.20	25.50	11.00		17.33		900.69

2011年週報推移(定点当たり)

